

比較文学比較文化コース

||| 石原 剛

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 3. 共著
 - ・竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学』第1部6章「地方色文学—ローカルカラーの作家たち」、ミネルヴァ書房、2021年4月、pp.10-11。
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・“The Development of Mark Twain Studies in Japan.” *The Journal of Nineteenth-Century Americanists*, vol.9, n.9, Fall 2021, pp.433-441。
 2. 共著
 - ・“Global Huck: Mapping the Cultural Work of Translations of Mark Twain’s Adventures of Huckleberry Finn—Special Forum Introduction.” *The Journal of Transnational American Studies*, University of California at Santa Barbara, vol.12, n.2, Fall 2021, pp.7-25。
- (3) 学会、研究会発表
 - ・講演：“A Century Old History of Mark Twain in Japan.”（英語）青山学院大学、2021年5月25日。
 - ・学会発表（招聘）：「アメリカの悪童物語と日本—佐々木邦、Metta Victor、そしてMark Twain」日本アメリカ文学会第60回全国大会、2021年10月2日。
 - ・ワークショップ：“Japanizing C19 American Literary Studies” J19 スペシャル・フォーラム、2022年1月29日〔オンライン〕。
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・巻頭エッセー「コロナ禍の中で思うこと—世界に拓かれるマーク・トウェイン」日本マーク・トウェイン協会 *Newsletter*, 51号、2021年7月、pp.1-3。
 - ・監修：『漫画 人間とは何か—マーク・トウェインの教え』文響社、2022年2月8日。
 - ・解説：マーク・トウェイン著、柴田きえ美訳『人間とは何か？—自己啓発の劇薬』文響社、2022年3月8日、pp.224-245。
 - ・書評「小野俊太郎著『トム・ソーヤーの冒険』の世界』『アメリカ文学研究』58号、2021年3月、p.141。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
英語一列 (S1, S2ターム)、比較文化論 (Aセメスター)、
- (2) 後期課程担当科目
比較文学論II (Sセメスター)、テキスト精読法I (Aセメスター)
- (3) 大学院担当科目
比較文学比較文化演習VI (S, Aセメスター)
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
青山学院大学文学部 アメリカ文学概論I/II、立教大学文学部 文学講義20

3. 学内行政業務

英語部会主任補佐、英語部会運営委員、英語部会人事委員、比較文学比較芸術コース教務委員、アメリカ太平洋地域研究センター編集委員、カリキュラム委員会委員、パンフレット委員会委員、GSI国際卓越大学院プログラム国際共同研究マネージメント担当。

|| 李 太喜

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 学会、研究会発表
 - ・「選択の対照的説明の不在に訴える自由意志懐疑論の批判的検討」、日本科学哲学会第54回大会、2021年11月
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・書評「アルフレッド・ミーラー『アメリカの大学生が自由意志と科学について語るようです。』」、Tokyo Academic Review of Books (<https://tarb.yamanami.tokyo/2021/08/0028-alfred-mele-free-will.html>)、2021年9月

|| 伊藤 徳也

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 1. 単著
 - ・『「生活の芸術」と「生の技法」／周作人と日本文学』（東京大学ヒューマニティーズセンターブックレット vol.10）
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・「武田泰淳における日中比較、私小説——1943年の二篇の周作人論から」（『周作人研究通信』第12号、p.1-14）
 - ・「1934年の中国文学研究会主催周作人歓迎会の実態について」（『周作人研究通信』第12号、p.57-61）
 - ・《連載小説〈阿Q正伝〉的幽默》（《魯迅研究月刊》2021年10月号、p.5-7）[中国語]
- (3) 学会、研究会発表
 - ・《周氏兄弟与早期創造社》、「創造社百年紀念學術研討会」、2021年12月11日、中国人民大学[オンライン][中国語]

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
中国語 国際研修
- (2) 後期課程担当科目
比較文化論 国際研修
- (3) 大学院担当科目
比較ナラトロジー

3. 学内行政業務

- ・教育研究費委員会委員長、財務委員会委員、総務委員会委員、前期課程運営委員会委員
- ・大学院比較文学比較文化コース副主任、大学院超域文化科学専攻運営委員、大学院比較

文学比較文化コース運営委員

- ・後期TLP委員会委員長、後期課程運営委員会委員
- ・リベラルアーツプログラム(LAP)運営委員、教養教育高度化機構国際連携部門兼任教員
- ・TLP委員会委員

||| 大石 紀一郎

||| 今橋 映子

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著『近代日本の美術思想——美術批評家・岩村透とその時代』白水社、上巻、2021年
総頁数716頁
2. 単著『近代日本の美術思想——美術批評家・岩村透とその時代』白水社、下巻、2021年
総頁数788頁

(2) 学会発表等

- ・第58回HMCオープンセミナー「忘れられた美術思想家・岩村透への光——比較文学比較文化研究の視座から語る」(東京大学ヒューマニティーズセンター 2022年3月18日、オンライン)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

S Semester = 総合科目(比較文化論)、A Semester = 総合科目(比較芸術)

(2) 後期課程担当科目

S Semester = 比較芸術論Ⅱ、A Semester = 芸術作品分析法Ⅰ

(3) 大学院担当科目

通年 = 比較文学比較文化演習Ⅲ

3. 学内行政業務

美術博物館委員、学友会評議員、『東京大学新聞』理事

||| 梶谷 真司

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

「共に考えることと共にいること——哲学対話による新たなコミュニティの可能性」、『実存思想論集XXXVI 哲学対話と実存』(実存思想協会編)、2021年6月、7-28頁。

(3) 学会、研究会発表

講演・講座

- ・「オンライン哲学対話 日本・ドイツ生活文化の未来 第2回 日独の「住まい」を哲学する～Anne & Sebastian Gross氏との対談」, 2021年4月9日, ゲーテ・インスティテュート東京&Zoom.
- ・第1回哲学講座「オンライン哲学対話 人生の目的とは何か」, 2021年6月5日, 碧南市

哲学たいけん村無我苑, 於 Zoom.

- ・第2回哲学講座「オンラインレクチャー&哲学対話 宗教とは何か」, 2021年7月31日, 碧南市哲学たいけん村無我苑, 於 Zoom.
- ・第3回哲学講座「オンライン哲学対話 記憶」, 2021年9月4日, 碧南市哲学たいけん村無我苑, 於 Zoom.
- ・「哲学対話ワークショップ 問う・考える・語る・聞くを知る」, 2021年9月19日, 公益財団法人豊橋文化振興財団, 於 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT.
- ・第4回哲学講座「オンライン哲学対話 コロナ禍のなか思うこと」, 2021年10月16日, 碧南市哲学たいけん村無我苑, 於 Zoom.
- ・第5回哲学講座「オンライン哲学対話 お金で幸せは買えるのか」, 2021年12月4日, 碧南市哲学たいけん村無我苑, 於 Zoom.
- ・第6回哲学講座「オンラインレクチャー&哲学対話 葬式とは何か」, 2022年3月19日, 碧南市哲学たいけん村無我苑, 於 哲学たいけん村無我苑+Zoom.

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

ドイツ語1列(Sセメ)

(2) 後期課程担当科目

現代思想(Sセメ), 倫理宗教論演習(Aセメ)

(3) 大学院担当科目

文化コンプレキシティ演習IV(S・Aセメ), 日独特別研究(S・A集中), 日独研究論I・II(集中), 多文化共生・統合人間学講義III(Sセメ)・VII(Aセメ), 多文化共生・統合人間学演習V(Sセメ)・IX(Aセメ), 多文化共生・統合人間学実験実習I(S・Aセメ), Normative Basis of Global Society(Aセメ)

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

ドイツ語翻訳I・II(帝京大学)、哲学A・B(東京女子医科大学)

3. 学内行政業務

総合研究棟管理委員会委員長、ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)執行委員、日独共同大学院(IGK)コーディネーター、多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)運営委員・「格差・人権」ユニットリーダー、共生のための国際哲学研究センター(UTCP)センター長、科学技術インタープリタープログラム運営委員、生命倫理連携研究機構運営委員

|| 國分 功一郎

I. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

・『暇と退屈の倫理学』(新潮文庫、2021年12月)

2. 編著

・『地球的思考——グローバル・スタディーズの課題』(清水光明との共編、2022年3月)

3. 共著

・『言語が消滅する前に』(千葉雅也との共著、2021年11月)

(2) 論文

1. 単著

- ・「国家と資本主義」、中島隆博編『人と資本主義』、2021年11月、東大出版会。
- ・「中動態と時間——木村敏の「こと」と「もの」論についての試論」、『臨床精神病理』(第42巻第3号)、2021年12月。
- ・「ジョルジオ・アガンベン『カルマン』——世界哲学の試み」、『現代思想 特集*現代思想の新潮流 未邦訳ブックガイド30』、2022年1月号、青土社。
- ・「外国語は存在している」、石井洋二郎編『リベラルアーツと外国語』、2022年2月、水声社。
- ・「中動態によって問い直される近代的人間像」、『地球的思考——グローバル・スタディーズの課題』、前掲書。

2. 共著

- ・「ポスト・コロナを考える」(白井聡との対談)、『神奈川大学評論』(第98号)、2021年7月。
- ・「目的もなく遊び続ける」(若林正恭との対談)、『文學界』、2022年1月号、文藝春秋社。

(3) 学会、研究会発表

- ・「クロソウスキーと歓待の原理、再び」、ピエール・クロソウスキー歿後二〇年+大森晋輔編『ピエール・クロソウスキーの現在 神学・共同体・イメージ』(水声社)刊行記念オンラインシンポジウム「歓待・倒錯・共犯性—ピエール・クロソウスキーの思想をめぐって」(主催UTCP:東京大学「共生のための国際哲学研究センター」)、2021年5月8日。
- ・「責任、帰責性、「自己責任」、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム「職域・地域架橋型—価値に基づく支援者育成」(TICPOC)、2021年5月23日。
- ・「責任の生成——中動態と当事者研究」(熊谷晋一郎との共同報)、TICPOC公開シンポジウム「当事者中心の時代の専門性——対人支援の倫理的転回に向けた内なる対話」、2021年11月28日収録、2021年12月20日～2022年1月4日にオンデマンド配信。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「言葉の破壊やめ、信じる価値語れ 菅首相退陣、哲学者・國分功一郎さんに聞く」、『朝日新聞』、2021年9月16日。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・「主体性って何だろう——意志と責任の視点から」(熊谷晋一郎との共同講演)、第84回教育実際指導研究会(主催、お茶の水女子大学附属小学校)、2022年1月17日収録、2022年2月11日～2月20日にオンデマンド配信。
- ・「三牧聖子さん、國分功一郎さんと民主主義を語る」(三牧聖子との対談)、「記者サロン×耕論」(主催、朝日新聞社)、2022年2月3日。
- ・「スピノザから考える意識の問題」(公開講座)、「月夜サイエンス 第39夜」(主催、KagaQ)、2022年3月21日。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミ、哲学II

(2) 後期課程担当科目

現代思想

(3) 大学院担当科目

Supervised ReadingsII、比較文学比較文化演習V、グローバル・スタディーズ解析論II、社会・環境・健康と東アジアIII(2)

3. 学内行政業務

グローバル・スタディーズ・イニシアティブ(GSI)ディレクター、東京大学生産技術研究

所LIMMS連携研究機構推進委員会メンバー、「渋谷QWSに係るワーキンググループ」(東京大学本部社会連携課)

|| Hermann Gottschewski

1. 研究・研究成果の公刊

(3) 学会、研究会発表

- ・ „Die Interpretation als Kunstwerk: Was noch zu tun ist“, 基調講演, Aspekte softwaregestützter Interpretationsforschung: Grundsätze, Desiderate und Grenzen, online conference, 09. & 10. April 2021
- ・ „Goethes Schema einer Tonlehre und Eulers Tentamen novae theoriae musicae. Eine Gegenüberstellung zweier „außermusikalischer“ Ansätze zur Musikbetrachtung.“ Deutsch-japanischer Workshop zu Goethes Naturwissenschaft, Weimar 23./24. März 2022 (ただしゴツェフスキの発表はオンライン)

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・ 外国語聴き取りソフトウェア Audimelius 作成 (千葉滋・中丸智貴と共に)
- ・ 書評「大愛崇晴著『16・17世紀の数学的音楽理論——音楽の数量化と感性的判断をめぐって』」『音楽学』67, 2021/2, 106-109
- ・ 作曲 (自作編曲) $\left[\sqrt[3]{\frac{29 + 3\sqrt{93}}{2}} + \sqrt[3]{\frac{29 - 3\sqrt{93}}{2}} + 1 \right]$, 2. Fassung für Streichquartett

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

ドイツ語初級(演習)、古典語初級(ラテン語)II、古典語初級(ラテン語)I

(2) 後期課程担当科目

芸術作品分析法IV、比較芸術論I

(3) 大学院担当科目

ジャンル交渉論II(S/A)

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

西洋音楽演奏史(通年、東京藝術大学)、音楽の演奏論(放送大学)

3. 学内行政業務

ドイツ学部主任、後期課程比較文学比較芸術コース主任、後期課程超域文化化学分科長、オルガン委員会委員長

|| 齋藤 幸平

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

2. 編著 Kohei Saito (ed.) Reexamining Engels's Legacy in the 21st Century (New York: Palgrave, 2021).

3. 共著

“The Legacy of Karl Marx's Ecosocialism in the 21st Century”, Salvatore Engel Di Mauro (ed), Routledge Handbook of Ecosocialism, London Routledge, 2022, pp. 253-261.

“Agriculture.” In: Sarah R. Ferraris et al. (eds.). *The SAGE Handbook of Marxism*, London: Sage, 2021, pp. 683-699.

“Primitive Accumulation as the Cause of Economic and Ecological Disaster”, Marcello Musto (ed.), *Rethinking Alternatives with Marx*, New York: Palgrave, 2021, pp. 93-112.

(4) 書評、記事、エッセー、その他

毎日新聞連載「齋藤幸平の分岐点ニッポン」

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

ウルリッヒ・ブラント、マルクス・ヴィッセン『地球を壊す暮らし方』(岩波書店、2021年)

キア・ミルバーン『ジェネレーション・レフト』(堀之内出版、2021年)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

経済原論IA

(2) 後期課程担当科目

ゼミ3、ゼミ4

(3) 大学院担当科目

現代資本主義論講義・演習、政治経済学

||| 齋藤 渉

1. 研究・研究成果の公刊

(3) 学会、研究会発表

Sho Saito, Fiction and its Agenda-Setting Function in the Enlightenment. Workshop on Handbook of Fiction and Belief, Part II: Fiction, Modernity, Objectivity. January 14, 2022 (オンライン)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

比較思想(Aセメスター)

(2) 後期課程担当科目

現代哲学(2)(Aセメスター)

(3) 大学院担当科目

比較モダニティ論I(Aセメスター)

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目 なし

3. 学内行政業務

広報委員(Aセメスターのみ)

||| 齋藤 希史

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

Mareshi SAITO, Arthur Defrance (訳)、Jean-Noël Robert (監修)、*Qu'est-ce que le monde sinographique ?*, Collège de France, Institut des Hautes Etudes Japonaises, 2021.10

齋藤希史『漢文ノート 文学のありかを探る』、東京大学出版会、2021.11

2. 教育実績

(2) 後期課程担当科目

学際日本文化論演習II

(3) 大学院担当科目

比較文学比較文化演習I

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

中国語学中国文学演習II, 同III, 同IV, 中国語学中国文学特殊講義II, 東アジア文学史論, 古典詩文選読, 古典文学芸術論選読, 漢魏六朝詩文選読, 東アジア人文学の諸問題(以上, 文学部・人文社会系研究科), 外国文学(早稲田大学), 日本研究関連科目(日越大学大学院)

3. 学内行政業務

連携研究機構ヒューマニティーズセンター機構長、教養教育高度化機構運営諮問委員、現代日本研究センター運営委員、KALS運営委員、EALAI運営委員

||| 桜井 英治

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

「贈与の境界、境界の贈与」『ゲンロン』12号、2021年、154-169頁

2. 共著

(3) 学会、研究会発表

「『塵芥集』の構成と成立過程について」比較国制史研究会(2021年11月13日フォーレスト本郷)

「中世貨幣史研究の現在」「信用の人類史」研究会(2021年12月12日フクラシア東京ステーション)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

歴史II、初年次ゼミナール文科、人文科学ゼミナール

(2) 後期課程担当科目

日本歴史文化論、学際日本文化論演習I

(3) 大学院担当科目

基層文化形成論II(文明過程論I・II)

3. 学内行政業務

進学情報センター運営委員会副委員長・同委員長・図書委員会委員

||| 佐藤 光

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

・日本民藝館監修『柳宗悦 民藝 美しさを求めて』別冊太陽日本のこころ294(平凡社、2021年11月14日)(執筆範囲「見る眼は知る心よりも勝る」—柳宗悦の民藝とブレイク研究」、24-25頁)

(2) 論文

1. 単著

・「W. H. ハドソンの共生思想と寿岳文章——ウィリアム・ブレイクの系譜の上で」、『向日庵』第5号(特定非営利活動法人向日庵、2022年3月20日)、1-7頁

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

Wayne C. Ripley Works in Romance Languages Contributed by Fernando Castanedo Works in Japanese Contributed by Hikari Sato Works in Turkish Contributed by Hüseyin Alhas Works in Russian and Other Cyrillic Languages Contributed by Vera Serdechnaia, 'William Blake and His Circle: A Checklist of Scholarship in 2020', Blake/ An Illustrated Quarterly 55 (University of Rochester, 2021)

<https://blakequarterly.org/index.php/blake>

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

英語中級、総合科目比較文学

(2) 後期課程担当科目

比較研究の理論

(3) 大学院担当科目

文化コンプレキシティ演習II

3. 学内行政業務

広報委員、カリキュラム委員、教養英語教科書作成班

||| 田口 一郎

1. 研究・研究成果の公刊

(4) 書評、記事、エッセー、その他

「学会展望(文学)総記」『日本中國學會報』第73集(2021年10月)pp.51-52

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミナール文科、日本語日本文学Ⅱ、東洋古典学

(2) 後期課程担当科目

東アジア文化論

(3) 大学院担当科目

比較文学比較文化演習I

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

中国語学中国文学特殊講義VI、VII(文学部)、釋大典『詩語解』講読(1)、(2)(人文社会系研究科)

3. 学内行政業務

14号館運営委員会委員長、14号館建物委員

||| 谷口 洋

1. 研究・研究成果の公刊

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

『漢書礼楽志訳注稿(文章篇)』(横山きのみ・西川ゆみと共著) 科学研究費補助金基盤研究(C)16K02581「漢代における物語のジャンル横断的研究—古代的宗教世界の解体を承けて」(研究代表者:谷口洋) 成果報告 全102 p

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
古典中国語
- (2) 後期課程担当科目
東洋古典学
- (3) 大学院担当科目
多元文化協力論II
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
楚辞『天問』講読(人文社会系研究科)／中国語学中国文学特殊講義IV(文学部)、中国文学各論／中国語学中国文学特論(東北大学)

3. 学内行政業務

東京大学学生委員

田村 隆

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 3. 共著
・『EAA Forum 17 一高中国人留学生と101号館の歴史』(東アジア藝文書院、2022年2月)
- (2) 論文
 1. 単著
・『『源氏物語』と地図』(『図書』第870号、2021年6月)
・「王昭君説話の語り方」(『語文研究』第130・131号、2021年6月)
・「昭和七年の「源氏物語に関する展覧会」をめぐる」(『むらさき』第58輯、2021年12月)
 2. 共著
・「源氏物語本文研究支援システム—「デジタル源氏物語」の開発におけるIIF・TEIの活用」(中村覚氏・永崎研宣氏との共著。『研究報告 人文科学とコンピュータ(CH)』Vol. 2022-CH-128、2022年2月)
- (3) 学会、研究会発表
・「王昭君と日本古典文学」(台湾大学セミナー、2021年10月20日、オンライン開催)
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
・「静かなコマメシを」(『教養学部報』第626号、2021年4月1日)
・「東の橄欖 西のオリーブ」(『東大駒場友の会会報』第37号、2021年9月)
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
・「デジタル源氏物語」【AI画像検索版】公開(2021年4月27日)
・「デジタル源氏物語」【挿絵画像比較機能】公開(2021年11月19日)
・「東京大学駒場図書館所蔵狩野亨吉文書」【日記】公開(2021年10月25日)
・「もうひとつの一高一戦時下の一高留学生課長・藤木邦彦と留学生たち」展(共催、東京大学駒場博物館1階展示室北側、2022年3月22日～6月24日)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

日本文化論Ⅰ、ことばと文学Ⅱ

(2) 後期課程担当科目

日本文化研究法Ⅱ、学際日本文化論演習Ⅲ

(3) 大学院担当科目

文化コンプレキシティ演習Ⅵ、人間の安全保障演習Ⅶ

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

「東京大学の歴史資産：埋蔵文化財と文化資源」(オムニバス形式、文学部・大学院人文社会系研究科)、「デジタル・ヒューマニティーズ入門」(オムニバス形式、文学部・大学院人文社会系研究科)、「古典文学演習Ⅱa・Ⅱb」(上智大学文学部)

3. 学内行政業務

人文科学委員長、初年次ゼミナール文科運営委員長、国文・漢文学部会主任、教養教育高度化機構アクティブラーニング部門兼務教員、環境委員、人間の安全保障プログラム(HSP)運営委員、教養学部オルガン委員、美術博物館委員、『駒場の70年』編集委員、東アジア藝文書院(EAA)リサーチ・ユニット担当教員

||| 出口 智之

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

・『画文学への招待—口絵・挿絵から考える明治文化』(Humanities Center Booklet Vol.12、2021年10月)

2. 編著

・『文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集』4(かーこ)編(出口監修、文京区立森鷗外記念館、2021年10月)

3. 共著

・『国語をめぐる冒険』(渡部泰明・平野多恵・田中洋美・仲島ひとみの各氏との共著、岩波ジュニア新書、2021年8月)

(3) 学会、研究会発表

・「近代文学研究は近代「文学」研究で十分か？—画文学の試み—」(日本文学協会第76回大会「文学研究の方法の再検証—樋口一葉「十三夜」をよむ—」、東京学芸大学(オンライン同時配信)、2021年11月28日)

・朝日智雄「木版口絵の世界—口絵との出会い—」(企画・司会・ディスカッサント、第51回HMCオープンセミナー、オンライン開催、2022年1月27日)

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・『魅惑の19世紀文学』連載(『かもめの本棚online』)：「アルベリックの貼雑帳—貴重な古文書が呼び起す怪異」(2021年4月9日)・「19世紀文学の魅力 もう1冊読みたいかたに」(4月28日)

・「絵とともにある明治文学」(『日本近代文学館』305号、2022年1月)

・「『裸蝴蝶』と口絵・挿絵の問題」(『別冊太陽』296 渡辺省亭 花鳥画の絢爛、2022年2月)

・「新刊クローズアップ 『国語をめぐる冒険』」(『日本語学』41巻1号、2022年3月)

- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
・「明治文学の彩り 口絵・挿絵の世界」(展覧会キュレーション、安藤宏氏と共編、日本近代文学館、2022年1月8日～2月26日)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初年次ゼミナール文科・日本語日本文学Ⅰ(理科生)・日本文化論Ⅰ
- (2) 後期課程担当科目
日本文化資料読解Ⅱ
- (3) 大学院担当科目
ジャンル交渉論Ⅰ・比較文学比較文化演習Ⅱ

3. 学内行政業務

超域文化科学紀要編集委員長

寺田 寅彦

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
1. 単著
- « Le paravent japonais : un univers qui se dresse », in Anne-Marie Christin, *Paravents japonais : Par la brèche des nuages*, Paris, Citadelles et Mazenod, 2021, pp. 39-40.
「エミール・ゾラと人権同盟——彫像をめぐる」(『超域文化科学紀要』第26号、2021年10月、109-126頁)
- « La vie était la lumière des hommes », *LITTERA* (Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises), numéro 7, mars 2022, pp. 49-58.
2. 共著
- (3) 学会、研究会発表
- « La vie était la lumière des hommes », Colloque international de la SJLLF, « Les vitalismes dans la littérature du XIX^e siècle », 23 octobre 2021.
« Zola et la Ligue des droits de l'Homme », Séminaire « Lire *La République et le cochon* avec Pierre Birnbaum », 16 mars 2022.
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
連載「イラストから読む教科書」(東京大学出版会『UP』2021年4月号～2022年3月号)
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
校訂 Anne-Marie Christin, *Paravents japonais : Par la brèche des nuages*, Paris, Citadelles et Mazenod, 2021.
校訂 Anne-Marie Christin, *Japanese Screens: Through a Break in the Clouds*, New York, Abbeville Press, 2021.(上記の本の英語訳)
校訂 Anne-Marie Christin, *Paraventi giapponesi. L'arte della pittura dalle origini al Novecento*, Milano, Mondadori Electa/ Rizzoli Illustrati, 2021.(上記の本の伊語訳)
担当執筆『仏検公式ガイドブック1級・準1級 2022年度版』(公益財団法人フランス語教育振興協会/駿河台出版社)215 - 232頁

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目

フランス語演習①(TLP)、フランス語演習②(TLP)、フランス語二列、国際研修

(2) 後期課程担当科目

比較文化論Ⅱ、フランス表象芸術論、テキスト精読法Ⅲ

(3) 大学院担当科目

比較文学比較文化演習Ⅳ、研究技法トレーニングⅠ

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

慶応義塾大学医学部「フランス語」

3. 学内行政業務

比較文学比較文化コース主任、大学院入試委員、TLP委員、後期教養科目運営委員会委員長、研究科長候補者推薦委員、ピアノ委員、オルガン委員、駒場博物館委員

||| 徳盛 誠

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著 「参入するテキスト——一条兼良の『日本書紀』「神代」解釈」、『国語と国文学』2022年1月号、36-50頁。

(3) 学会、研究会発表

1. 「変容するテキストとしての『日本書紀』——十五世紀までの事例をめぐって」、東アジア古典学の方法第69回 北京大学セミナー第2回、2021年11月19日(オンライン開催)。

2. 「中世の『日本書紀』解釈における思想変動——一条兼良『日本書紀纂疏』を中心に」、第47回HMCオープンセミナー(東京大学ヒューマニティーズセンター主催)、2021年11月26日(オンライン開催)。

(4) 書評、記事、エッセイ、その他

「国際交流センター——支援の観点から」、『駒場の70年1949-2020 法人化以降の大学像を求めて』(駒場70年史編集委員会編、東京大学出版会、2021年)。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

「芳賀徹先生著作目録」、共編、『比較文学研究』第107号、東大比較文学会、2022年。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミナール文科

(2) 後期課程担当科目

テキスト精読法Ⅱ、調査研究実習

(3) 大学院担当科目

文化コンプレキシティ演習Ⅳ

3. 学内行政業務

国際交流センター副センター長、留学生相談室室長、大学院比較文学比較文化コース運営委員、教養学科比較文学比較芸術コース副主任、奨学委員、紀要委員

||| 永井 久美子

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・「『世界三大美女』言説と戦後日本の美人観——小町とヘレネの交代から考える」荒木浩・前川志織・木場貴俊編『日本大衆文化研究叢書 第4巻 〈キャラクター〉の大衆文化——伝承・芸能・世界』KADOKAWA、令和3年11月29日、pp. 123～146

(2) 論文

1. 単著

- ・「『記紀神話としての『シン・ゴジラ』——ヒルコ、カグツチ、スサノオの物語』東アジア日本文学会（韓国）『日本文化研究』第80輯、令和3年10月、pp. 85～106
<https://dongasia.jams.or.kr/po/volisse/sjPubsArtiPopView.kci?soceId=INS000001841&artiId=SJ000001602&sereId=SER000000001&submCnt=3&indexNo=4>

(3) 学会、研究会発表

- ・東京大学ヒューマニティーズセンター第55回オープンセミナー「作家の身体と新聞報道——三島由紀夫の例から考える」オンライン会議システムZoomでの開催、令和4年2月25日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・書評「三浦篤『移り棲む美術——ジャポニスム、コラン、日本近代洋画』」『教養学部報』第631号、東京大学教養学部、令和3年11月1日、p. 2
- ・東京大学ヒューマニティーズセンター「行動する人の歴史——力はどこからくるか」第7回研究会活動報告「『地域史』（＝『民衆史』）から考える」令和3年12月20日オンライン記事公開
https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fuyuko/kaken/koudou_rekishi_activity.html
- ・（青木優氏との共著記事）「進学情報センター」駒場70年史編集委員会編『駒場の70年1949-2020——法人化以降の大学像を求めて』東京大学出版会、令和3年11月30日、pp. 183～187
- ・（青木優氏との共著記事）「施設・組織紹介 将来を考える指針に——進学情報センターの活用」『教養学部報』第635号、東京大学教養学部、令和3年4月1日、p. 3

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

講演

- ・「絵巻『病草紙』から考える「美」と「醜」質問対応・研究室訪問 夢ナビライブWeb in Summer / in Autumn、オンライン会議システムZoomでの開催、令和3年7月10日、7月11日、10月2日、10月3日

インタビュー記事

- ・（青木優氏との共同インタビュー）「相談機関ガイド 進学情報センター」東京大学ピアサポートルームホームページ、令和3年6月21日
<https://ut-psr.net/counselingguide/academicguidance/>

写真掲載

- ・東大駒場友の会「2022年度学事カレンダー」(東大駒場友の会、令和4年3月) 写真およびキャプション 表紙「春の1号館」、4月「若葉萌ゆ」、6月「黄昏時の紫陽花」、7月「銀杏並木への招待」、9月「秋夜」、2月「雨上がる」

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

初年次ゼミナール文科

(3) 大学院担当科目

文化コンプレキシティ演習V

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

日越大学大学院 Traditional and Modern Japan

3. 学内行政業務

進学選択調整部会委員、進学情報センター運営委員会委員、教務委員会委員、学生相談協議会委員、オルガン委員会委員

||| 前島 志保

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

「第IV章 大宅壮一文庫の活用(1)横断的研究 雑誌アーカイブ・大宅壮一文庫——その現在と未来」石川巧・阪本博志 編 『大宅壮一文庫解体新書』 勉誠出版 2021年5月 95 - 115頁

(3) 学会、研究会発表

[研究会発表]「子供向け出版物としての『コドモの本』」 朝日会館コドモ企画研究会第8回研究会(リモート開催) 2021年5月15日

[学会ワークショップ発表]「雑誌アーカイブ・大宅壮一文庫——その現在と未来」 ワークショップ1「メディア史研究と雑誌アーカイブ——公益財団法人大宅壮一文庫を中心に」 日本マス・コミュニケーション学会(現 日本メディア学会)2021年春季大会(リモート開催) 2021年6月5日

[シンポジウム発表]「メディア史から見た『アサヒカイカン コドモの本』」 シンポジウム(第6回ジャーナリズム研究会・朝日会館コドモ企画研究会)「朝日会館と〈コドモ〉文化(1926-1935)——メディア、家庭、社会教育」(リモート開催) 2021年8月14日

[国際学会 パネル発表] “Shifting Realisms in Japanese Journalism at the Turn of the Century: Focusing on Pictorial Magazines around the Russo-Japanese War.” 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS) (リモート開催) 2021年8月26日

[国際学会 基調講演] “In Search of Lost Images and ‘Cracks’ in Mass Media: Representations of Self and Other in Interwar Japanese Magazine Photo Reportages.” “Japan: Premodern, Modern, Contemporary” Conference Dimitrie Cantemir Christian University, Bucharest, Romania(リモート開催) 2021年9月4日

[国際学会発表]「雑誌アーカイブ・大宅壮一文庫——その日本研究への活用」 東アジアと同時代日本語文学フォーラム(リモート開催) 2021年10月17日

[研究会発表]「19 - 20世紀転換期ヨーロッパと日本における出版と俳句鑑賞法の変化(1)」 ブラジル国際俳句研究会(リモート開催) 2021年11月7日

[研究会発表]「座談会記事再考——明治末期から昭和初期の雑誌における談話体記事」 メディア史研究会 2021年11月例会 (リモート開催) 2021年11月27日

[公開セミナー発表]「『見る雑誌』の誕生——近代日本における雑誌写真の展開と『主婦之友』の写真表現」 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター 第56回HMCオープンセミナー(リモート開催) 2022年3月4日

[研究会発表]「19 - 20世紀転換期ヨーロッパと日本における出版と俳句鑑賞法の変化(2)」

ブラジル国際俳句研究会(リモート開催) 2022年3月6日

(4) 書評、記事、エッセイ、その他

[記事][「幕間」のごあいさつ]『大阪春秋』2021年春号(182) 新風書房 2021年4月

[記事(エッセイ)][「科目別 東大教員からのエール 国語」「言葉」とは何なのか]『東京大学新聞』2021年9月14日号

[発表要旨][「座談会記事再考——明治末期から昭和初期の雑誌における談話体記事」]『メディア史研究会通信』(ML:メディア史研究会ニュース) 2021年12月

[跋文][「朝日会館コドモ企画研究会について」]『EAA Forum 18 朝日会館と〈コドモ〉文化(1926—1935)——メディア、家庭、社会教育』東京大学出版会 2022年3月 115—116頁

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

画報誌研究会主宰・運営(2021年5月6日、12月19日)(リモート開催)

ジャーナリズム研究会(EAAリサーチ・ユニット内)主宰・運営(2021年8月14日=シンポジウム、2022年3月20日=国際ワークショップ)(リモート開催)

東大比較文学會『比較文学研究』編集委員(業績一覧・書評担当)

大澤コロキアム スーパーバイザー 2021年9月7日(リモート開催)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

「学術フロンティア講義(全学自由ゼミナール)(PEAK)」[Introduction to Japan in East Asia]、「総合科目A(思想・芸術)」(比較文化論)[近代日本における出版・読書文化の大衆化]

(2) 後期課程担当科目

「比較日本文化論II」(文化・思想研究特論II、東西文明学I(言語と歴史3)、世界歴史と東アジアI(1)、グローバル教養特別演習I(14)、専門英語(2)) [Media and Modernity in Japan]、「比較文化論I」(専門日本語(1))

(3) 大学院担当科目

「文化コンプレキシティ演習I」(多文化共生・統合人間学演習VII)[明治・大正期の新聞・雑誌を概観するXIII]

「Research Workshop I, II, III」

3. 学内行政業務

EALAI執行委員、東アジア藝文書院(EAA)リサーチ・ユニット担当教員、東アジア藝文書院(EAA)教務委員、ハラスメントに関する相談委員、GSP(国際人材養成コース)運営委員・教務委員(従)、JEA(国際日本研究コース)運営委員、PEAK前期部会主任(委員長)

||| 松井 裕美

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

・木俣元一・佐々木重洋・水野千依(編)『聖性の物質性 人類学と美術史の交わる場所』三元社(担当「色彩における物質性と聖性——イヴ・クラインの芸術実践における聖別と洗神のあわい」)

・木俣元一・近本謙介(編)『宗教遺産テキスト学の創生』勉誠出版(「キュビズムと聖性——

アルベール・グレーズのキリスト教信仰と失われた宗教壁画」)

(3) 学会、研究会発表

・「歴史の中のリアリズム——美術理論における意味の変遷」、リアリズム文学研究会例会、2021年11月27日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・「マティスの肖像」『ユリイカ』53-55(773)、2021年5月
・「名古屋で展開した写真運動の軌跡(書評『写真の都』物語 名古屋写真運動史)』『週刊読書人』2021年4月16日

2. 教育実績

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

神戸大学大学院国際文化学研究科現代芸術社会論特殊講義(博士前期課程)、神戸大学大学院国際文化学研究科芸術文化論演習(博士前期課程)

3. 学内行政業務

前任校で学内行政業務に従事

三浦 篤

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

小池寿子、三浦篤、NHK「ルーヴル美術館」制作班『NHK8K ルーヴル美術館 美の殿堂の500年』NHK出版、2021年4月

(2) 論文

1. 単著

「マティスと「東方」—ジャポニスム、マネ、オリエンタリズム」『ユリイカ』2021年5月号、p. 270-279.

"Relations diplomatiques franco-japonais et japonisme dans les années 1860", dans Œuvres japonaises du Château de Fontainebleau - Art et diplomatie, cat. exp., Château de Fontainebleau, Dijon, Faton, 2021, p. 39-49.

「フランク・ミュラー —輝くレトロモダン」『The flow of sweet time - Franck Muller 至福の時』展図録、2021年10月、p. 16-19.

2. 共著

(3) 学会、研究会発表

「マネとファンタン=ラトゥール —友情と共闘—」、日仏美術学会シンポジウム「マネへのオマージュ：画家を取り巻く人々」、オンライン配信、2022年3月5日

「1878年の日仏美術交流」、日仏美術学会創立40周年記念シンポジウム「フランス美術研究の現在と未来——日仏学術交流の進展を目指して」オンライン配信、2022年3月26日、27日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

「大人のための印象派講座」『芸術新潮』毎月連載、2021年4月号～2022年3月号

2. 教育実績

なし(2021年度は研究休暇の年であった)

3. 学内行政業務
駒場博物館館長

||| 渡辺 美季

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

・東京大学史料編纂所一般共同研究「史料編纂所所蔵明清中国公文書関係史料の比較研究」プロジェクト編『明清中国関係文書の比較研究－台湾所在史料を中心に－』同プロジェクト、2021年8月、P.1-115(編集統括および総論・解題の執筆)

(2) 論文

1. 単著

・WATANABE Miki: “Early modern Ryukyu between China and Japan.” Gary P. Leupp, De-min Tao ed., *The Tokugawa World*, Routledge, 2021 (September), pp.420-441.

・渡辺美季「〈史料紹介〉咸豊三(1853)年『産物御用掛方日記』(評定所文書1506号)写本一解題および翻刻(下)一」『沖縄史料編集紀要』45、2022年3月、P.(41)-(73)

(3) 学会、研究会発表

・渡辺美季「絵引から見た琉球人行列と江戸」2021年度第1回公開研究会「『日本近世生活絵引』の世界：琉球人行列と江戸編」、神奈川大学非文字資料研究センター、2021年10月23日(オンライン)

・渡辺美季「墓をめぐる裁判と法律－王国末期の事例から－」第43回南島文化市民講座「葬墓制からみる近世琉球社会－祖先と子孫の対話－」、沖縄国際大学南島文化研究所、2021年11月13日(オンライン)

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・コラム：渡辺美季「琉球国から沖縄県へ」『岩波講座世界歴史』12(東アジアと東南アジアの近世)、2022年3月、P.267-268

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

歴史 I

(2) 後期課程担当科目

日本文化研究法 I

(3) 大学院担当科目

文化コンプレキシティ演習Ⅲ

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

神奈川大学国際日本学部「東アジアの交流史 A」

3. 学内行政業務

グローバル共生プログラム(GHP)運営委員、地域文化研究専攻兼任教員